



# 生駒市 SDGs未来都市計画

奈良県生駒市（2019年度選定）

<b>1. 地域の特徴と課題及び目標</b>	<p>生駒市は奈良県の北西端に位置し、緑豊かな自然環境に恵まれ、大都市へのアクセスも良好であることから、関西を代表する良好な住宅都市として発展してきた。近年は、「子育てしやすいまち」としての評価も高まってきている。</p> <p>主な課題は若年層の人口減少への対応・老年人口の増加への対応、地域経済循環の活性化とライフスタイルの変化への対応等がある。</p>	<b>2. 関連するゴール</b> 
<b>3. 取組の概要</b> (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	<p>いこま市民パワーによる地域の事業所・一般家庭への電力供給により、これまでは市外に流出していたエネルギーコストが市内にとどまり、資金の地域内循環による地域経済の活性化につながる。また、収益は、コミュニティサービスに活用され、地域課題の解決及び市民生活の質的向上につながる。供給電源は、市域の再生可能エネルギー由来の電源を最優先で調達することとしているため、再生可能エネルギーの普及拡大にも寄与する。</p>	
<b>4. 自治体SDGs推進等に向けた取組</b> <p>地域新電力である「いこま市民パワー株式会社」を核とした日本版シュタットベルケモデルの形成を目指す。</p> <p>市内の太陽光発電の開発に取り組む市民団体「(一社)市民エネルギー生駒」からの電力調達をはじめ、市民や地域のステークホルダーと引き続き連携しながら取組を進める。</p> 	<b>6. 取組成果</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●再生可能エネルギーの活用 いこま市民パワーでは、引き続き地産再エネ電源などを活用しながら供給を継続。（再エネ比率21.7%）</li><li>●コミュニティサービスの実施 いこま市民パワーの収益を地域に還元して実施するコミュニティサービスとして、市内全小学校における「登下校見守りサービス」の継続。置き配バッグの普及支援や、市主催イベントにおいて参加者に対し再エネ意識啓発・取組周知などを実施。</li><li>●資源循環・コミュニティステーションの設置 「複合型コミュニティづくり」事業として生駒市で自治会を対象に補助を実施したほか、いこま市民パワーがコミュニティサービスの一環として自治会の支援を行ったことにより、事業に取り組んでいた8自治会中3自治会で継続して実施。</li></ul>	
<b>5. 取組推進の工夫</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●令和5年4月に選定された脱炭素先行地域プロジェクトを推進するため、太陽光発電・蓄電池PPA事業等の事業主体となる合同会社いこまサンライフを設立し、体制の強化を図った。</li><li>●市内企業・市民団体等による自発的なSDGsアクション活性化を図るため、「いこまSDGsアクションネットワーク」において、マッチング支援、SDGsセミナー等の企画を実施。</li></ul>	<b>7. 今後の展開策</b> <ul style="list-style-type: none"><li>●令和5年4月に生駒市はいこま市民パワーなどを共同提案者とし、環境省が公募する“脱炭素先行地域”に選定された。その事業計画はSDGs未来都市計画の取組をさらに加速させるものであり、SDGs推進により一層寄与するものである。</li><li>●いこま市民パワーによる収益事業を強化するとともに、まちづくり会社として地域で活躍する市民・企業・団体のハブとしてコミュニティの活性化と、地域課題の解決を図る。</li><li>●市内の多様なステークホルダーが参画する「いこまSDGsアクションネットワーク」において、勉強会やマッチングイベントの開催・事業補助など、会員支援の充実を続けていく。</li></ul>	
<b>8. 他地域への展開状況</b> （普及効果）	視察受け入れ：「守谷市」「伊勢原市」「長野市」「岡山市」「岡山大学」「長崎県立大学」 事例掲載・紹介：「東京大学高齢社会総合研究機構」	